社会医療法人近森会

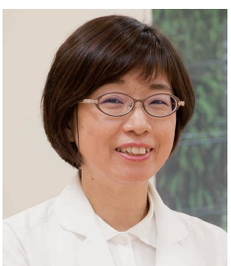
ひろっぱ

7

Vol.360

発行
2016年6月25日

www.chikamori.com ● 高知県高知市大川筋一丁目1-16 〒780-8522 tel. 088-822-5231 発行者●近森正幸 ／ 事務局●寺田文彦



近森リハビリテーション病院

院長就任にあたって

近森リハビリテーション病院
院長　和田 恵美子

平成28年7月1日付けで院長に就任

平成元年開院後、初代石川誠先生の時代からのバトンを佐々木院長から受け継ぎましたが、さっそく6代目の重責を感じています。障害をもっても地域で暮らすことができるように、という理念はそのままに、新しい時代に合わせたリハビリテーションを行っていきたいと考えています。

先端のリハビリテーションの導入

世の中のリハビリテーション技術はどんどん進んでいます。新しい知見、技術を取り入れ、スタッフが自ら勉強したいと感じる気持ちを大事にしていきたいです。

スタッフの教育

昨年度は嚥下障害への理解をふかめるために定期講習会を開きました。またポストポリオ検診も回数を重ね、全国から集まった仲間と勉強会を開催できるようになってきました。今後も義肢装具、高次脳機能障害などの定期勉強会を検討していきたいと考えています。

高知県で完結できる障害者医療を

患者さんが安心して高知県で最新のリハビリテーションがうけられるように努力していきたいと思います。急性期医療終了後に速やかに回復期に移行し、できるだけ早く在宅で生活できる支援を行っていきたいと考えています。

回復期だけでなく急性期、生活期でも

将来的には急性期にリハ専門医が常駐し、生活期対象にも専門外来を開設していきたいです。そのためにはリハ専門医を育てていくことが必要です。患者さんが障害を理解し、自己管理ができ、必要な時に専門医に相談できることが理想的な社会だと生活期対象の検診会を通じて感じています。

全国の回復期リハビリテーション病院と比較して、当院のメリットは急性期病院と密接した関係でありながら独立したリハビリテーション病院であるということ、急性期から生活期までを経験したリハスタッフがいること、リハビリテーション病院に長年勤務する看護・介護スタッフがいることだと考えています。私の就職したころは看護師である田村キミ子副院長がいつも助けてくれました。医師である中山衣代副院長と、今回新しく副院長となる寺山みのり看護部長といっしょに理想が実現できると信じています。

わだ　えみこ

協働の促進に尽力

近森リハビリテーション病院
副院長兼看護部長　寺山 みのり

この度、副院長職を拝命いたしました。和田院長より「これからも当院のスタッフ全体をみて欲しい」というありがたいお言葉をいただきました。これまで以上に、俯瞰的視点をもって当院の医療システムを捉え、全体の方向性を検討していきたいと考えております。

当院が築き上げてきたリハ医療の姿勢、スタッフ間の信頼関係は、多職種協働を支える揺るぎない土台です。この土台の上でチャレンジし、変化し続ける経験をスタッフとともに積み重ねていきたいと思っております。まずは私たち管理職の協働の促進に尽力する所存です。ご指導よろしくお願いいたします。

てらやま　みのり

● 医療今昔物語 ●　麻酔科　1

全身麻酔適応年齢

近森病院麻酔科
部長　楠目 祥雄

「ちゃんと覚めるかねえ？」

麻酔の説明をしていますと、特に高齢の手術予定患者さんやそのご家族から、今でもよくこのようなご質問を受けます。

これはかつてご自身の親族や知り合いから、「麻酔から覚めなかった」事例を伝え聞いているからだと思われます。しかし昔であってもそのようなことはないはずで、それはきっと麻酔中に心臓発作や脳卒中などが発生して、その結果意識が戻らなかったのをその一言で済ませていただけのことです。でも、当時はそれで納得されるくらい全身麻酔は大変危険なものであると広く認識されておりました。

私が新人麻酔科医となったちょうど30年前には、「70歳以上の高齢者には全身麻酔手術の適応がない」と教えられました。その年齢になると、麻酔リスクを増大させる全身疾患の有病率が増えますが、その当時はまだ今ほど麻酔の知識や技術が十分ではありませんでした。

しかし今では、質の良い麻酔薬や精度の高い生体情報監視モニターが数多く開発されたおかげで、より高齢の方にも全身麻酔手術の適応が広がりました。例えば、80歳台の患者さんが安全に心臓手術を受けていますし、股関節部分の骨折手術についても、90歳台や100歳以上の患者さんに対してすら普通に全身麻酔が施行されています。現在での麻酔リスクは、言葉の通り「万が一」です。

麻酔の今昔物語では、ここ数十年で飛躍的に進歩してきた麻酔の技術についてご紹介していきたいと思います。

くすめ　よしお

7月の歳時記

向日葵

近森産業
（セブンイレブン外来センター）
岡林 勇樹さん

これから暑くなるにつれ咲き始めるヒマワリの花は、ひとつの大きな花に見えますが、実際にはたくさんの花が集まってできたものです。

花びらのようになって外側に咲いている舌状花は、かざりの花で実を結びません。反対に、内側に密集している管状花は地味ですが、実を結び種が出来ます。幼い頃、ハムスターに種をあげていたことを懐かしく思います。

おかばやし　ゆうき

イラスト：近森産業（セブンイレブン外来センター）森光厚仁さん

● ● ●　近森看護学校通信　● ● ●

工石山青少年の家で宿泊研修

5月26､27日の2日間、工石山青少年の家に1年生43名と宿泊研修に行ってきました。1日目は竹細工と体育館でスポーツを、夜はバーベキューを楽しみました。2日目には工石山登山を満喫してきました。

「普段なかなかできない体験ができ有意義な時間が過ごせた」という学生の言葉を借りるとすれば、私たち教員も学生たちとさまざまな活動や一夜を共にすることによって、普段の教室だけでは見られない学生たちの姿を見ることができ、新たな課題や可能性を見出せたような気がします。

一人ひとりのペースは違ってもこの登山のように最後は全員が笑顔でゴールしたいと思っています。

（田原佳奈）

看護部 キラリと光る看護

在宅生活が長く続けられるように
～ 外来センターの取り組み ～

近森病院外来センター
看護師長　日浦 利恵

外来センターが現在地にオープンして４年半の月日が経過しました。

初診、再診ともに予約のある患者さんを対象とした予約専門外来で、専門的な治療が終わった患者さんは地域のかかりつけの先生が連携して下さっています。

８時25分、２階内科処置室に約50人の看護部職員が伝達事項、委員会報告、診療事項等の共有のために集まり、危険予知トレーニング（KYT）を取り入れた申し送りをしています。

今年度の外来センターの看護目標は「外来センターの基本方針を踏まえた全人的な看護支援を実践、在宅生活を延長する」です。その人にあった看護を提供し、住み慣れた地域、家で長く過ごしていただこうというものです。

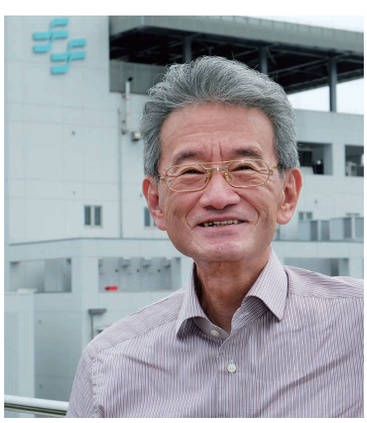
ベテラン揃いの看護師35人（パート含む）とクラーク32人の協働関係は強固です。他部門のチームとも報告、連絡、相談で患者さんの気持ちに寄り添える強みを持っています。通院されている患者さんにとっては、予約制にもかかわらず何故待ち時間があるのかと思われる方もいるかと思います。予約枠人数、検査結果待ち、複数科の受診等で順不同が生じます。急に具合が悪くなられた患者さんは、ERで診てもらう事もあります。待ち時間短縮に向け、スタッフ一同取り組んでいますのでご理解いただければと思います。

私たちは外来センターで診てもらって良かったと言われるよう、専門外来の名に恥じることなく皆で力をあわせて頑張っていきたいと思っています。

ひうら　としえ

▲危険予知トレーニングの申し送り風景

シングルモルト



近 森　正 幸

ふだん自宅で飲むお酒は、食事や雰囲気によってビールやワイン、ハイボール、日本酒や焼酎、泡盛とさまざまだが、この数年、朝ドラのマッサンに影響されモルトウイスキーにはまっていた。ところが、友人からいただいたマッカランの50年ものを飲んでから、その奥深さに衝撃を受け、変化する香りや味にとりつかれてしまった。以来すべてのスコットランドのシングルモルトを味わってみようと、看板の出ていないいつものバーに本格的に通うことになった。

スコットランドの蒸留所をちょっと数えてみただけで、ローランドやスコッチの中心スペイサイド、個性的な北ハイランドやアイラ島など100カ所以上にもなる。それぞれの蒸留所に何種類かのボトルがあり、樽の種類や熟成年数、ヴィンテージやブレンドなどの違いがある。ひとつの銘柄の7、8年から20、30年ものを垂直に、あるいはスペイ川本流やその支流の流域ごとの蒸留所を水平に飲み比べている。これではスコットランドのモルトウイスキーをすべて制覇するころには、確実に肝臓をやられてしまう。

そこでボトルごとに香りを嗅ぐための口がせまくなったグラスに少量のウイスキーを入れ、大きな氷を入れたタンブラーにそのウイスキーと水をハーフ＆ハーフにして小さなグラスに注ぐことで、ワンフィンガーの水割りになる。そうすることで一晩でグラス二杯ぐらいのウイスキーしか飲まないが、いちどに7、8本の各蒸留所や年代ごとのボトルを味わうことができる。30分から1時間ほどかけることで、麦芽の柔らかい甘みや蒸留由来の蜂蜜のような濃厚な甘み、ミルキーさ、樽由来のシェリー香やバニラ、シガーや黒胡椒のスパイシーさ、ピート（泥炭）からくるヨードのようなピーティーさ、ベースにある「旨み」など、さまざまな香りと味の変化を楽しむことができる。手間がかかるので予約してお客さんの少ない夕方5時ごろからスタートしている。

この高知の田舎で、マスターがスコットランドのほとんどのシングルモルトを備えていてくれたおかげで、モルトウイスキーのすばらしさを知り味わうことができた。彼の存在そのものが、奇跡であり、文化だと思う。

理事長・ちかもり　まさゆき

▲クラガンモアの前に口のせまくなったグラス、そして水割りのグラスが並んでいる

乞！熱烈応援

良い職場環境を目指して

近森リハビリテーション病院
薬剤部科長　中野 克哉

原稿を書く前日まで急性扁桃炎で数日休みをいただきました。職場は人手が足らず大変な所、同僚には「心配ないのでゆっくり休んで下さい」と温かい言葉を頂きました。病で心も身体も弱っていて本当に救いでした。

まずは皆が病気にならない、病気になってしまった人には労りの言葉をかけてあげられる、そんな職場環境にしていきたいと思います。

なかの　かつや

自分と若手磨きを

近森病院
薬剤部主任　宮﨑 俊明

先輩たちの背中を「追いつけ追い越せ」、後輩たちに背中を「追い抜かれないように」と日々業務を行ってきました。

薬剤師としての仕事に加えて、薬剤部の新人教育や学生実習の担当といった教育関係にも参加させてもらっているので、今回の辞令を機に、自分と若手磨きを一層頑張っていきたいと思います。

みやざき としあき

頼れる医事課

診療支援部
医事課課長　竹﨑 智博

このたび、医事課長を拝命いたしました。医事課業務は、年々複雑化する診療報酬により、これまで以上に高い専門性が求められています。医学的知識向上とともに診療現場とのコミュニケーションを大切にし、“頼れる医事課”を目指して行きたいと思います。

まだまだ未熟ですが、今後とも何卒ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

たけざき　ともひろ

良い病院づくりのために

診療支援部
施設用度課主任　宮下 公将

良い病院をつくるためには理想と現実のギャップを埋めることが必要であり、そのなかで施設用度課はさまざまな折り合いをつける大事な役割をいただいております。

患者さんや職員が本当に困っていることはなにか、そのなかで病院最適となる解答はなにかを考え業務に専念しますので、ひきつづきご指導をお願いいたします。

みやした　まさゆき

ワイン講座 ● 44

ぶどう品種を知り、個性を探る
白ぶどう その21
スペイン篇　マカベオ（ビウラ）

プラセット・デ・ヴァルトメジョソ／パラシオス・レモンド／スペイン、リオハ地区 ●
この品種を用いて造られたワインではトップクラス。高い樹齢のぶどうから、低収量にこだわっており、果実の濃縮感があり、余韻の長い味わい。

スペインの代表的、かつ重要な白ワイン用ぶどう。スペインの各地で栽培されていますが、主要な産地は北部に集中しています。

バルセロナを州都にもつカタルーニャ州では、マカベオまたはマカベウと呼ばれ、リオハやナバーラ、アラゴン州ではビウラと土地によって呼び方が異なります。

また、シャンパーニュ方式を用いてスペインで生産されるカヴァと呼ばれるスパークリングワインにも、この品種は不可欠です。

北部の冷涼な産地では、心地よい酸と独特の香りをもったワインとなります。また、世界中の偉大な白ワインは、赤ワイン同様、樫樽での熟成をさせています。

スペインのリオハでも優れた生産者はその流儀を用いており、豊潤でナッツのような風味のコクのある味わいとなり、リオハの伝統的なスタイルに仕上げられます。

白ワイン用としては勿論、酸が多くて長期熟成が可能なことから多くのリオハの赤ワインにブレンドされています。

鬼田知明（有限会社鬼田酒店代表）

出 張 報 告

アジア心臓血管胸部外科学会 in 台湾

2016 年 4 月 6 ～ 10 日

懐かしい出会いや新たな知識まで

近森病院心臓血管外科
科長　手嶋 英樹

台北で開催された学会にて、17mm 機械弁の遠隔成績のポスター発表を行いました。

学会自体は 1993 年に母校久留米大学が開催し、私自身は 2011 年にこれまた台北で開催されて以来の参加でした。2007 年に彼の地に臨床留学していた経緯もあり、旧知の方々との再会が楽しみで、変化に驚きつつ、昔を顧みつつ、へたくそな私の北京語は相変わらず通じないなーと思いつつ、この学会は日本人が多いなーと思いつつ、マイペースで参加してきました。

▼台湾大学同期の紀先生と

Award では国立台湾大学の同期の紀先生が立派な発表（On-pump CABG が優れた遠隔開存率でした!）にて受賞されていました。いろいろ違いはありますが、また溝を開けられたなーと悔しい思いをしました。台北の生きたレジェンド外科医、振興病院の魏先生にも再会でき最近の動向（LVAD、低侵襲治療）も確認できました。やはり、偉人です。

▼振興病院の魏先生と

親友の劉さんの計らいで栄民総病院関連の日本人の方々との会食も参加でき、新たな出会いにも恵まれました。その他も久しぶりに「こんなところで日本人」みたいに偶然、久しぶりに会った方や新たに知り合いになった方など枚挙にいとまありませんが、つい無茶しちゃいましたら、日にちは経ってしまい、あっという間に帰国してしまいました。また戻ろうと心に誓う進歩のない中年男子の交流話、失礼しました。

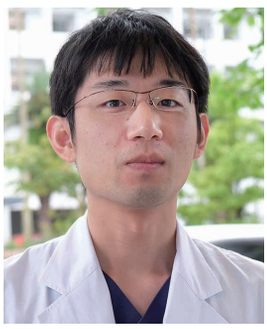
てしま　ひでき

▼栄民総病院関連の日本人の方々と

米国胸部外科学会・病院見学 Vol.16

2016 年 5 月 9 ～ 16 日

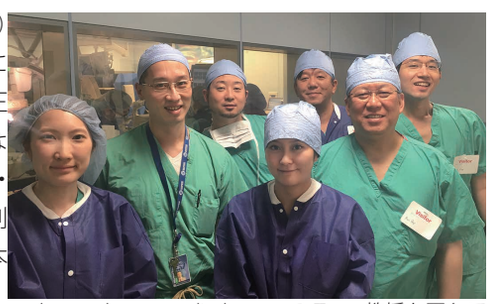
複雑で難しい領域で最先端医療に触れる



近森病院
麻酔科　河野 宏之

ニューヨーク出張の前半は、コロンビア大学附属病院とウェストチェスターメディカルセンターを視察しました。両病院では心臓手術見学の機会があり、麻酔側で見学や質問をさせていただきました。

いずれも米国有数の施設ですが、麻薬性鎮痛薬はフェンタニルのみしか用いておらず、重症の TAVI（経皮的大動脈弁植え込み術）症例でも症例により橈骨動脈圧ラインを省くなど、使える薬剤・器具にかなり制約があり、日本と比べるとコストダウンを強く意識されているようでした。



▲ westchester medical center の Tang 教授を囲んで
近森会スタッフと㈱シーメック吉原氏

TAVI 手術は日本と違い約 9 割が局所麻酔で施行されていましたが、その利点も循環の安定、迅速な麻酔導入以外に、気管挿管しないことで術後の食事摂取が早く、そのため術翌日または 2 日後に退院でき、コストが安くなるということでした。

どちらの先生方も非常にフレンドリーで、拙い英語で質問しても何でも笑顔で答えて下さいました。特に 2 施設目では、麻酔を担当されていた Cheng 先生の方からメールアドレスを聞かれ、今後また TAVI 麻酔で気になることがあれば何でも聞いていいよ、とメールまで送って下さりました。

後半は米国胸部外科学会大動脈シンポジウムに参加しました。治療が複雑で難しい領域で、多方面から盛りだくさんな内容でした。出張を通して最先端医療に触れることができました。この経験を今後の麻酔に活かしていこうと思います。

こうの　ひろゆき

ハッスル研修医

貴重な研修環境

初期研修医　竹森 大悟

高知大学、近森病院複合研修プログラムで、1年目に近森病院で研修をさせていただいています竹森大悟です。

中学、高校、大学では硬式テニスにうちこんできました。最近は広島カープの勝ち負けに一喜一憂する毎日です。

近森病院での研修が始まり早2カ月経ちました。当然のことですが学生の頃とはすべてが大きく変わり、苦労する日々が続いております。

PHSが鳴るたびにビクビクし、採血する手は未だに震えています。そんな私ですが、コメディカルの方々や熱心に指導してくださる先生方に支えられ、充実した研修を送れていると感じます。近森病院の方々はもちろん、患者さんとそのご家族には、貴重な研修環境を与えていただき感謝しています。

社会人そして医師としてまだまだ未熟者ですが、いつまでも謙虚な気持ちを忘れずに医療に携わっていきたいと思います。今後ともよろしくお願いします。

たけもり　だいご

ハッスル研修医

自分が何をすべきか

初期研修医　西村 拓哉

高知大学、近森病院複合研修プログラムで1年目に近森病院で研修をさせていただいています。自分で言うのは恥ずかしいのですが、今年解散の噂があった某グループのメンバーの一人と名前が一文字だけ違うということで、この「ひろっぱ」を見て名前だけでも覚えていただければ幸いです。気軽に「ニシタク」と呼んでください。

研修がスタートし分からないこともたくさんありますがその都度先生方やスタッフの方々が丁寧に教えてくださり、徐々に研修生活にも慣れてきたところです。ただ先生と呼ばれることに慣れるのにはまだまだ時間がかかりそうです。

研修が始まりいちばん感じたことは、先生方やコメディカルスタッフの方がさまざまな方向から一人の患者さんを診て、医療を行っているということです。そんななかで、いまは研修医として医師として自分が何をすべきか学んでいるところです。

それなりに忙しい毎日ですが、学ぶことがあるということは成長につながるという点で幸せなことでもあると思うので、常に学ぶ姿勢を持ち続け、早く先生と呼ばれることに違和感がなくなるようにしていきたいです。

にしむら　たくや

リレー　エッセイ

近森病院へ入職し、感じたこと

近森病院救命救急センター（ER）
看護師　齋坂 美賀子

私は近森病院へ、約2年前に中途採用で入職させていただきました。救急医療、看護に携わりたい、もっと深めたいという思いで近森病院への入職を考えたのですが、最初は病院を変えることに不安もあり、なかなか勇気がでませんでした。そんな迷っているなか、院外研修で近森病院の医師や看護師の方々とご一緒させていただき、色々お話を伺う機会がありました。

「近森なら自分がやりたいことをできる！さまざまな職種のスタッフがいて、チーム医療を展開できている

▼ハワイへの職員旅行

よ！」と生き生きと話されている姿を見て、「こんなにスタッフが生き生きと仕事ができているなんて、楽しそう！」と思い、近森病院へ飛び込むことにしました。

実際働いてみて、やはり感じたことはコメディカルの職種の多さ、そしてそれぞれが治療に積極的に関わり、連携がよく取れていること。すぐに部署に来て治療に介入してもらえるため、質の高い医療が提供できると共に、自分自身もとても勉強になるな、といつも感じています。

そして何より驚いたのは、院内スタッフとの交流できる機会の多さです！フォローアップ研修以外でも、運動会（これかなりびっくりしました）や院内旅行（これかなり入職の決め手でした）、スポーツ活動などなど……。

仕事以外での交流会で、お互い顔の見える関係が作れる。これが仕事でもお互いのコミュニケーションをスムーズにし、よりよい医療が提供できると感じています。

実際、来てみてよかった！と楽しく仕事をしつつ、自分も今後チームの一員として力を発揮できるよう、頑張っていきたいと思います。

さいさか　みかこ

平成 28 年熊本地震 DPAT（災害派遣精神医療チーム）出動

2016 年 5 月 7 ～ 11 日

6 カ所の避難所を 3 日間巡回、診察を行う

▼瀬戸口先生と筆者（左）

近森病院総合心療センター
病棟看護師長　山中　俊典

あき総合病院澤田副院長（右から 2 人目）、奥村副看護長（右端）▼

4 月 14、17 日に発生した熊本地震では、熊本県からの派遣要請に基づき 7 チームの高知 DPAT（災害派遣精神医療チーム）が編成され、4 月 21 日から 5 月 22 日まで派遣されました。

このうち 5 月 7 日～ 11 日まで派遣された第 4 班に、総合心療センター瀬戸口隆彦医師と山中と県事務職員の 3 名が参加しました。

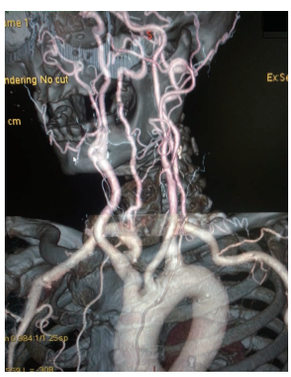
第 4 班では熊本市西区内に設置されている避難所のうち、支援要請のあった 6 カ所の避難所を 3 日間巡回し、診察を行いました。

今後は、九州や沖縄などの近隣県の DPAT を中心に、長期的に発生が予想される PTSD 等（心的外傷後ストレス障害）に関する支援が継続される予定です。　　やまなか　としのり

高知県診療放射線技師会学術奨励賞受賞の報告

学術奨励賞を受賞して

画像診断部診療放射線技師　谷脇　貴博



6 月 5 日に開催された高知県診療放射線技師会総会にて、私が同会の学術大会で発表した演題である「頸部から骨盤造影 CTA における撮影方法とタイミングの検討」が平成 27 年度の学術奨励賞を受賞しました。

内容は頸動脈ステント留置術適応の患者さんの CT 検査時に、今までよりも少量の造影剤投与で撮影できるよう造影のタイミングなどを検討したものです。

向かって左から 3 番目が筆者

私自身思いも寄らぬ事でしたが、同僚の協力もあり受賞できました。

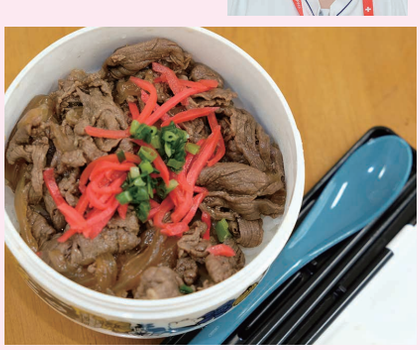
これからもより良い画像の提供ができるよう、日頃の業務に励みたいと思います。　　たにわき　たかひろ

お弁当拝見　44　目指せ週一お弁当

近森リハビリテーション病院
4 階西病棟看護師　和田　幸恵

お弁当を作る時は前日に下拵えをして、朝の準備に時間がかからないようにしています。前日時間があれば作りますが、最近は忙しくてお弁当を注文することが多かったです。

滅多にお弁当を持って行かないので、料理をしないイメージがあるようで……、お弁当を持って行くと驚かれます。これからは栄養面を考慮しつつ、イメージ払拭のためにも、週 1 回はお弁当を持って行けるようにしたいです。



わだ　さちえ

近森会保育室 そると

今回も足長おじさんからたくさんの絵本が届きました。

ニューフェイス

①所属②出身地
③最終出身校
④家族や趣味のこと、自己アピールなど

人の動き　敬称略

おめでとう

※詳細は近森会グループのウェブサイトに掲載しています。
お問い合わせ：社会医療法人近森会　看護部長室
メール：kango@ chikamori.com

図書室便り（2016 年 5 月受入分）

- 骨折：髄内固定治療マイスター／澤口毅（編）
- 人工股関節置換術「THA・BHA」人工関節の基礎知識，基本テクニック，合併症対策：写真・WEB 動画で理解が深まる／大谷卓也（他編）
- 手術室における看護過程と記録／浦雅司（編著）
- 医療法学入門第 2 版／大磯義一郎（他著）
- 逆引き DICOM Book ／ JIRA DICOM 委員会（編著）

《別冊・増刊号》

- 画像診断別冊 KEYBOOK シリーズこれだけは知っておきたい心臓・血管疾患の画像診断／宇都宮大輔（編著）
- デンタルハイジーン別冊わかる・気づく・対応できる！診療室からはじめる口腔機能へのアプローチ／菊谷武（他編著）
- 呼吸器ケア 2016 夏季増刊オールカラーとことんやさしい！だけじゃナイ！人工呼吸器まるごとブック／ NPO 法人沖縄呼吸ケア研究会（編著）
- マンガでわかる！透析患者のよくある症状とケア　透析しているとき・していないときに気をつけたい 36 の訴え／伊東稔（他編集）

編集室通信

今年の大型連休、久しぶりに帰省した旧友と会食した。会うなり彼は「最近どう？」と聞く。「相変わらず忙しい」といつもの答え。ふと、ラジオ番組で言っていた女性タレントの言葉を思い出した。「忙という字は、左に心、右に亡って書くけど、どんなに忙しくても心を亡くすような人にはなりたくない」と。まったく同感。

以来、“忙しい”はあまり言わないように意識していたが、そのことをすっかり忘れていた。忘も、亡、心で出来ている。忙しさは誤魔化せない。

山リー

2016 年 5 月の診療数　システム管理室

近森会グループ	
外来患者数	18,327 人
新入院患者数	940 人
退院患者数	932 人
近森病院（急性期）	
平均在院日数	15.31 日
地域医療支援病院紹介率	65.41 %
地域医療支援病院逆紹介率	136.89 %
救急車搬入件数	536 件
うち入院件数	291 件
手術件数	439 件
うち手術室実施	311 件
うち全身麻酔件数	167 件

2016 年 5 月　県外出張件数
件数 60 件　延べ人数 139 人

人物ルポ 310 ● 株式会社 SRL（臨床検査受託会社）検査技師／松丸忠広さん

実は体育会系のノリと根性で

「検査室に籠りきり！?」の、丸２年

東京池袋まで電車で 15 分弱のところに実家がある。全国 80 数カ所に拠点を構える臨床検査専門㈱ SRL の、同期生十数人では珍しく、入社数カ月で広い世界を見るよう抜擢され、近森病院へ異動。本年 7 月で本館 3 階の検体検査室勤務が丸 2 年になる。「ほとんど籠りきり」で、血液や尿など各種検体と向き合う毎日を送っている。

しかも、「病院技師より一歩引いたポジションであるべき」という控えめさが加わると、ますます「謎な人」に映るのかも知れない。そのうえ、都会育ちの二枚目で、一見クール。

だが、大学在学中のホリデー留学をはじめとしたエピソードの数々は、彼がホントは「熱い人」という印象を強めそうだ。

肯定ばかり、愛情いっぱいの親

いま 25 歳。これまでを振り返ってもらったところ、小さい頃から何ごとにつけ肯定し、行動力を存分に養ってくれた愛情いっぱいの親の姿が垣間見えるような日々に溢れていた。

祖父母の家が栃木にあり、休みには必ずといえるほど遊びに行き、アウトドア生活ばかりが印象に残っているという。その経験が影響してかどうか、「ちょっと田舎に行くだけで癒やされるような感覚が持てる」らしい。

法政大学付属の高校でエスカレータ式に進学もできた時期。たまたま近所にあった㈱ SRL のラボ（研究所）で働いていた母親から、「医療の需要はますます増えるし、社会的使命をもって働けるような国家資格を取る道もあると提案された」。指示ではなく、「提案」。

そういう選択肢もあることに気づかされ、「ただ一校受験してみた」のが帝京大学で、合格した。

留学もサラッと、伸び伸び

在学中の留学経験は、「なんでもやってみたいし、どこへでも行ってみた

かったから」。そんな希望が特別に頑張るとか、肩に力の入る感じではなく、純粋な動機を無条件に応援され、サラッと実行に移せた。この辺りに、恵まれた環境で伸び伸び成長してきた倖せが滲んでいるようでもある。

バリバリの体育会系

フェンシングの部活では関東大会 3 位、全国大会やジュニアオリンピック競技大会にも出場経験があるほど、「バリバリの体育会系」の一面もある。

幼稚園の頃からボーイスカウトをずっと続け、積極的に集団生活に入ることを促され、「自然」にも親しんだ。大人になってからは、その経験を指導者資格にも繋げた。

緻密さは当然、根気も根性も求められる「孤独な時間外検査」に、嬉々として没頭できる体力や気力を持つ。

これは、幼い頃から集団でも個人でも、それぞれに自分の活動に納得しながら、色々な経験を意識的に積んできた結果、知らず知らずのうちに養われたものなのだろう。

生身の人間よりも検体に向き合うことが多い毎日。だが、正確で迅速な検査数値が、具体的に治療に役立っているという誇りに裏打ちされ、「仕事を振られたら、できるだけ NO とは言わずベストを尽くしたい」とも。この姿勢が、松丸さんをよりクールな仕事人に見せているのかも知れない。

▲遥々会いに来てくれた友人と、愛媛県にある松丸駅で。「四国に運命を感じました！」
▼ダイヤモンドヘッドと記念撮影

今後ともますます経験を増やしたい！

現場に迷惑をかけないように体調管理にも気を遣い、「出来る限り自炊をするよう心がけている」そうで、プライベートもやっぱり優等生である。

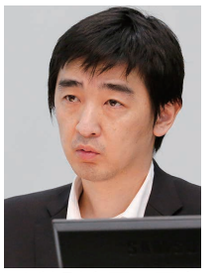
大学時代には東京大学医学部附属病院で実習し、検査技師の社会的使命について考えるようになった。その上で、「自分は全国展開をしている企業で、検査技師として、健康で豊かな社会づくりに貢献したい」と感じたそうだ。

まだまだ幅広く経験を増やしたいパワーみなぎる熱い夏は、始まったばかりである。

日本消化器内視鏡技師学会　2016年5月13、14日

グローバルな視点での内視鏡技師の役割
～内視鏡技師の質の向上には～

学会長
近森オルソリハビリテーション病院
看護部長　尾﨑　貴美



▲特別企画の司会
近森正康部長

大阪での日本消化器内師鏡技師学会で学会長を務めさせていただきました。1,737名の参加者でした。

13日のナイトセミナーの後、懇親会では、講師の先生方も参加され、招待のタイ・韓国・中国の方たちには浴衣を着ていただき、四国の踊りを共に踊り楽しい交流会となりました。

▲海外からの講師

14日は教育講演、研究発表、シンポ、ランチョン、ベンダープログラム等多彩な内容に加え東アジア内視鏡看護フォーラムを行いました。今回は私の強い希望で近森会の協力のもと、タイより医師と看護師をお招きし、各国での内視鏡の現状を知り、広い視野で内視鏡看護を考える良い機会になりました。

こうした機会を与えていただいたことに感謝すると共に、多くの方々にご協力いただき無事終えることができたことに対して、御礼申し上げます。

おさき　きみ

第153回地域医療講演会　2016年5月20日

平成28年度診療報酬改定とDPC（Diagnosis Procedure Combination）

◀東邦大学医学部
小山信彌特任教授

多職種による
多数精鋭のチーム医療の重要性を
示唆した改定内容

管理部長　寺田　文彦

東邦大学医学部の小山信彌特任教授をお迎えして開催、院内外より151名もの参加がありました。先生は、中央医療審議会の専門部会であるDPC評価分科会の会長をされておりDPC制度に造詣が深い方です。

DPC／PDPS（疾病別1日包括診療支払制度）が開始され12年が経過します。今回の改定は、医師、看護師中心の少数精鋭の医療から、多職種による多数精鋭のチーム医療の重要性を示唆した改定内容が盛り込まれていると報告されました。

早く元気になって自宅に帰っていただくという付加価値を提供するために、膨大な業務を行いアウトカムを出すことでDPCの評価が得られます。目先の点数に左右されない、まっとうな医療を行い続けることがDPC制度を構築する上で最重要であるとの説明をされました。

専門性の高いスタッフの数を増やすことが、医療の質の向上および病院経営に不可欠であることを示唆された、有意義な講演会であったと思います。

てらだ　ふみひこ